

選択美術科学習指導案

日 時 10月13日 5校時
学 級 選択教科A美術選択コース
(3年男子3名 女子2名,
2年女子2名 計7名)
指導者 石川 みどり

1 題材名 伝達のデザイン
～ CDジャケット・BOOKカバーのデザイン～

2 題材について

(1) 教材観

選択教科としての「美術」では、「自分の興味・関心等に応じて選んだ課題や教科の学習に主体的に取り組み、学ぶことの楽しさや成就感を味わえるように」、し、「それぞれの個性を生かす教育」を充実させることがねらいとなる。これを踏まえ、本校の選択教科としての「美術」は、指導要領の「指導計画の作成と内容の取り扱い」に示されている中の「表現の能力を補充・発展的に高める学習」をめざすものである。

本題材では、必修教科の1年次に学んだ色彩の学習や平面構成、レタリングなどの基礎的な技法や、2年次に学んだモダンテクニックなど必修教科としての「美術」での学習を生かし、自分の身の回りのものにも「美術」という要素がたくさんあるということに目を向けさせ、CDジャケットやBOOKカバーによって他者にメッセージを伝えることの充足感を味あわせることができるのではないかと考え、この題材を設定した。

CDジャケット・BOOKカバーは、パンフレットのようにじっくり時間をかけて読みとるものではない。新鮮なアイデアを考え、文字やイラストレーション、色彩や全体の構成を工夫し短時間で簡潔に伝えたい内容が伝わるようにする必要がある。このように柔軟な発想や多様な表現を取り入れた制作により、それぞれのより個性的な表現能力の育成が期待できると考える。

(2) 生徒観

本校の2・3年生は、全体的に美術に対する創作意欲が高いとは言えない。描くのは好きであるが、絵の具で色を塗る作業が苦手であったり、見て描くのは得意であるが、考えて描くことが苦手だったりという状況が見られる。これは基礎・基本の技能の定着が図れていないためと考えられる。そこで、1年次ではデザインの基礎的な技法を学び、2年次ではモダンテクニックなどを学び、デザイン感覚を高めてきた。

美術を選択している個々の生徒は、意欲はあるが、技術的な面では苦手意識が先行しがちな生徒2人、未熟な面があっても自分の世界を持ち意欲的に活動する生徒3人、能力的な面は高いのだが、追求することを避けてしまう生徒1人、しっかりと構想を立てることができ、技術面も充実している生徒1人などさまざまな生徒がいるが、真面目で課題に対して一生懸命に取り組み、授業に比較的意欲をもって学ぼうとしている。

(3) 指導観

人に「知らせる」、「伝える」活動を通して、自分自身を見つめ、自分の身の回りのものにも「美術」がたくさんあることを改めて考えさせ、物事に対する見方や考え方を育てていきながら、ものを描く楽しさ、喜びを味わわせていきたい。

本題材の基礎・基本としては、柔軟な発想力や形・色・材料で表す表現方法の工夫ととらえ、指導していきたい。これらの基礎的な能力や態度等は、生徒一人一人の個性や特性によって、習得したり獲得したりする場や時間が異なってくるため、表現や鑑賞の活動のあらゆる課程でこうした基礎的な能力を身につけられるようにする必要がある。選択美術においては、個別指導をより充実させ基礎的な能力の定着が図れるように支援していきたい。

3 学習指導目標

【興味・関心】

- ・ 生活の中で接するCDジャケットやBOOKカバーなどに用いられているデザインの機能や表現方法などについて関心をもつことができる。
- ・ 自分のアイデアを生かしながら、デザイン活動を楽しむことができる。

【発想や構想の能力】

- ・ CDジャケットやBOOKカバーのデザインの機能や効果などを考え、自分らしい発想を広げることができる。

【創造的な技能】

- ・ 形や色彩、材料や技法の効果的な生かし方などを考え、自分のイメージに合った表現手段を用い、自分なりに工夫することができる。

【鑑賞の能力】

- ・ 自分の作品や友達の作品をみて、そのよさや造形的表現方法の特徴などを味わうことができる。

4 指導計画（総時間数 6時間 本時6 / 6）

| 時間 | 学習内容 | 評価規準 | | | |
|----|---|--|---|---|----------------------------------|
| | | 美術への関心・意欲・態度 | 発想や構想の能力 | 創造的な技能 | 鑑賞の能力 |
| 1 | 生活の中で接するCDジャケットやBOOKカバーに接し、そのよさや表現のねらい、もたらされている効果や造形的な美しさなどを考え、味わう。 | ・ CDジャケットやBOOKカバーに接し、そのよさに気づき、表現のねらいや、造形的な美しさなどを考えることができる。 | ・ 作品のイメージを伝えるために機能や効果を考え、言葉や文章で考えることができる。 | ・ デザインの機能や効果を考え、CDジャケットや本のイメージを想像できるようなレイアウトを考えることができる。 | |
| 2 | 制作内容を知り、作品を通して伝えるイメージのテーマを決め、全体の構成や表現方法などを言葉や文章で考える。 作品のアイデアスケッチを複数描いて、それらを検討しながら作品のイメージを広げ、構想を練る。 | | | | |
| 3 | 自分が表現したいイメージを表すために表現意図を意識し、それにあつた技法を取り入れ、デザイン活動の楽しさを感じ取りながら制作を進める | ・ 自分のアイデアを生かしながら、デザイン活動を楽しむとうとしている。 | | ・ 自分が表現したいイメージを表すために表現意図を意識して丁寧に仕上げるることができる。 | |
| 4 | 完成した作品をお互いに鑑賞する。 | | | | |
| 5 | | | | | |
| 6 | | | | | |
| 本時 | | | | | ・ 自分や友達の作品のよさや表現方法の工夫を味わうことができる。 |

5 本時の指導

(1) 本時の目標

- ア 自分が表現したいイメージを表すために、表現意図を意識して丁寧に仕上げることができる。(創造的な技能)
- イ 自分や友達の作品のよさや表現方法の工夫を味わうことができる。(鑑賞の能力)

(2) 本時の評価項目と具体的評価規準

| 具体的評価規準 評価の観点 | A 十分満足できる | B おおむね満足できる | C 努力を要する生徒への手だて |
|------------------|--|--|---|
| 創造的な技能 | 自分が表現したいイメージに合う表現手段用い、その特性を的確に生かし、創意工夫して仕上げることができる。 | 自分が表現したいイメージを表すために、表現意図を意識して丁寧に仕上げることができる。 | 制作の内容が行き当たりばったりで、作品のイメージをもつことができない。イメージに近づけることができるように、表現方法をさまざま試行するように促す。 |
| 鑑賞の能力 | 自分や友達の作品についてよさを感じることができ、様々な表現方法のもたらす効果を積極的に知ろうとすることができる。 | 自分や友達の作品のよさや表現方法の工夫を味わうことができる。 | 自作品を肯定的に受け止めず、また他人の作品にも関心を示さない。作品について具体的によいところをコメントし、関心を促す。 |

(3) 本時の展開

| | 学習活動 | 教師の支援、教材・教具等 | 評価項目 |
|-----------|---|---|--|
| 導入 5分 | 1 前時までの想起 ・前時までの学習を振り返り、進捗を確認する。 2 本時の課題確認 | ・一人一人が確認できるように具体的な制作手順を示し、挙手させる。 作品、学習プリント | |
| 展開 40分 | 3 本時の課題を理解する。 4 作品のイメージを確認。 ・学習プリントによって自分の作品のイメージを再確認し、作業の見通しを持つ。 5 作品を仕上げる。 ・各自の課題に沿って制作を進める。 例) イメージへの近づけ方 * モダンテクニックの使用 * レタリングの工夫 等 6 作品鑑賞 ・自分の作品についての感想を学習プリントにまとめて発表する。 ・各作品と発表についての感想を友達の感想カードに記入する。 | ・机間巡視をしながら一人一人作品のイメージを確認し、迷っている生徒にはポイントを絞って助言をしていく。また、具体的なイメージを持っている生徒には発表してもらい、参考とするように促す。 ・イメージに近づけることができるように、表現方法をさまざま試行するように促す。 ・最後の授業になるので、丁寧に仕上げをさせる。 作品、それぞれの描画素材、学習プリント ・感想をまとめる際、自分の作品を客観的に見ることを苦手としている生徒には、具体的によい点をコメントしながら巡視する。 作品、学習プリント | ・自分が表現したいイメージを表すために、表現意図を意識して丁寧に仕上げることができる。 ・自分や友達の作品のよさや表現方法の工夫を味わうことができる。 |
| 終末 5分 | 7 本時のまとめ ・今回の学習を振り返り自己評価カードに記入する。 8 後片付け | 学習プリント ・必修教科の授業に引き継げるように意欲を喚起する。 例) * 仕上げの重要性 * 生活と美術の関わり等 | |

本時の展開（細案）

| | 学習活動 | 教師の支援，教材・教具等 | 評価項目 |
|--|--|---|---|
| 導入 5分 30 ~ 35 | <p>あいさつ 「3年生男子お願いします。」</p> <p>1 前時までの想起 ・前時までの学習を振り返り，進 度を確認する。 「今まで、自分が選んだCDや 本のイメージをもとにそれぞれC DジャケットやBOOKカバーの デザインを考えて制作してきました が、前の時間は先々週だったけ ど、自分がどこまで制作したのか 覚えているかな？まずそれを確認 をしておきましょう。だいたい色 を塗り終わった人。</p> <p>2 本時の課題確認 では、今日はいよいよ前期最後 の選択の日ですので、しっかりと 仕上げをしていきたいと思いま す。が、仕上げをしていくにあた って忘れてはいけないことがあり ます。それは、何でしょう？その CDの曲や本のイメージ、自分が 持っているイメージを最後まで大 切にすることですね。 というわけで、今日は、最終的 なイメージを確認しながら仕上げ をして、最後にみんなで、それぞ れの作品の鑑賞をしましょう。 いいですか、では、55分まで に何とか仕上げて、終わった人か ら、各自アイデアスケッチの欄 の下に感想を書きましょう。</p> | <p>・一人一人が確認できるよう に具体的な制作手順を示し， 挙手させる。 作品，学習プリント</p> | |
| | <p>・イメージに近づくための仕上げをしよう。 ・自分の作品や友達の作品のよさを発見しよう。</p> | | |
| 展 開 40 分 35 ~ 55 | <p>3 本時の課題を理解する。 今日やることがわかったかな？</p> <p>4 作品のイメージを確認。 ・学習プリントによって自分の作 品のイメージを再確認し，作業の 見通しを持つ。 ではまず、各自、自分のプリン トの「イメージを言葉で書いてみ よう」のところを見てください。 先週なかったからね、思い出そう ね・・・、どうかな、さん のイメージはどんな感じかな（曲 の色、風景なんかはどんな感じ）？ そうそうあと、やってるうちに 全体がくすんできたりしますので、 そういうところも、しっかり 強調したい部分はしていこうね。 （たとえば、レタリングや・・・） ではみんなも、自分のイメージを 最後までしっかり持て作業をしま</p> | <p>・机間巡視をしながら一人一人作 品のイメージを確認し，迷ってい る生徒にはポイントを絞って助言 をしていく。また，具体的なイメ ージを持っている生徒には発表し てもらい，参考とするように促す。</p> | <p>・自分が表現し たいイメージを 表すために，表 現意図を意識し て丁寧に仕上げ ることができる。</p> |

えて色を塗ったりしてても、最初のイメージと違ったりするから。最後に見直して、きちんと自分のイメージを確かめる時間って必要だと思います。普段の美術の時間でも同じだよ。

しかっり最後は見直そう。
あと今回取り組んだ課題って、普段みんなの生活の中に当たり前のように存在するよね(ポスターやジャケットも本も)。実際にそれを作っている人がいて、見る人使う人がいます。みんなのなかには、美術なんて将来関係ないやんと思ってる人もいるかもしれなけれど、美術は、つくりだす人だけでは存在できないんだよ。使う人見る人なんかもいて、美術なんだと思うんだ。みんなは、つくり出す人にならなくても、使ったり、見たりそのものを選ぶことは、日常の中にたくさんあると思いますので、これからもどんどん美術に関わって、自分のセンスを高めていってください。

2 後片付け
では片づけて終わりにしましょう
あいさつ